

## デンマークにおけるソーシャルワーカーの養成と業務

保 正 友 子

キーワード：デンマーク，ソーシャルワーカー養成，ソーシャルワーカー業務

### I. 本報告の目的と視察概要

#### 1. 本報告の目的

筆者はこれまでに、スウェーデン、フィンランド、ノルウエーのソーシャルワーカーの業務内容について視察を行い、報告を行ってきている（保正 2015, 2016, 2018）。今回は、北欧4か国目として、デンマークに訪問した。2019年8月24日から29日にかけてデンマークの福祉視察を行い、コペンハーゲンのソーシャルワーカー養成大学とデンマーク社会相談員協会においてソーシャルワーカーの養成とソーシャルワーカー業務に関するインタビューを行った。

そこで本報告では、デンマークにおけるソーシャルワーカーの養成と業務の紹介を通して、日本のソーシャルワーカー養成やソーシャルワーカー業務との相違点を検討することで、日本のしこみを相対的に捉えるうえでの一助になれば、と考えている。

#### 2. デンマーク王国の概況

外務省ホームページによると、デンマークの面積は約4.3万平方キロメートルで九州とほぼ同じ大きさである。2018年現在の人口は約578万人で、首都はコペンハーゲンである。言語はデンマーク語であるが、コペンハーゲンでは英語が通じた。宗教は福音ルーテル派が国教となっている。

デンマークの歴史をみてもみると、第二次世界大戦終了によりドイツの占領から解放され、2000年に国民投票でユーロ参加が否決され、2015年には国民投票でEU司法・内務協力分野の留保撤廃を否決されている。

立憲君主制の一院制であり、2016年11月28日、環境政策や税制を巡り、右派陣営内の基盤を固めるために、自由党、自由同盟、保守党の3党から成る第3次ラスムセン内閣が成立した。ラスムセン内閣は、安心・安全、医療、高齢者福祉の充実を政権の優先課題としている。主要産業は、流通・小売り、畜産・農業、運輸、エネルギーである。

### 3. 視察日程と場所

筆者がデンマークを訪れたのは今回で2度目であり、教員5人と学生3人で表1の日程で視察を行った。

本稿は、8月27日に訪れたソーシャルワーカー養成大学およびデンマーク社会相談員協会での職員へのインタビュー結果に基づいて執筆する。

表1 視察日程

日 程	視 察 先
2019年8月26日	<ul style="list-style-type: none"> <li>・障害児のいる保育園 "Arken"</li> <li>・知的障害児の住宅 "3 Kløvveren"</li> </ul>
2019年8月27日	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ソーシャルワーカー養成大学 Professionshøjskole Metropol</li> <li>・高齢者施設 Lindely-Sankt Lukas Stiftelsen</li> <li>・デンマーク社会相談員協会 Dansk Socialrådgiver Forening</li> </ul>

## II. デンマークのソーシャルワーカー養成

### 1. ソーシャルワーカー養成の概要

#### ① デンマークの教育制度

デンマークの教育制度は教育省が管轄しており、以下のようになっている。

0歳～6歳までが保育園に通い、その後、9年～10年間の義務教育を経た後に、3年間は普通高校で学ぶ。その後、19歳か20歳の時に大学教育を受けることになるが、普通高校卒業後の1、2年は進学せずに仕事に就く青年が増えてきている。しかし、政治家は直接の大学進学が望ましいと考えており、その方が成績評価が良くなるよう制度改革を行った。しかし、視察先では22歳で現場実習に行くと若すぎるため、元に戻したいと考えている。

大学進学の際には、50%は卒業試験の平均点が、残りの50%は卒業後の1、2年間に行ってきたことが勘案される。

#### ② デンマークのソーシャルワーカー養成教育

デンマークのソーシャルワーカー養成教育は、3年6ヵ月が標準である。履修はヨーロッパ単位互換制度（ECTS：European Credit Transfer and Accumulation System）に基づくポイント制を導入しており、60ポイント取得に1年間に要し修了には210ポイントが必要である。なお実習は30ポイントの取得が求められることになるが、視察先では30ポイントを2年間かけて取得するシステムとなっていた。

終了時の国家試験は行わず、養成校の卒業資格によってソーシャルワーカー資格取得をしたとみなされる。約8割の卒業生は公共機関で働いており、うち7割が自治体、1割が医療機関である。

## 2. 視察先のソーシャルワーカー養成大学の概要

### ① 視察先の概要

ソーシャルワーカー養成大学である Professionshøjskole Metropol では、社会教育学修士のマリネ (Marlene Corydon Harritsø) さんと国際交流担当のオーテ (Dorthe Høvids) さんより話をうかがった。視察先は、2018 年度に 2 つの大学が統合し専門教育が行える最大のカレッジになった。デンマークの 3 カ所に 11 カ所のキャンパスを有している。

学生数は全 20,142 人であり、視察先のキャンパスには 1,662 人が在籍していた。そのうち、主要な資格取得コースとしては、6,155 人が児童教師のペダゴギー資格の教育、3,616 人が看護教育、3,346 人が教師教育、1,662 人がソーシャルワーカー教育を受けている。

卒業後にさらに勉強したい場合には、コペンハーゲン大学の修士課程に進学することも可能である。この学校の卒業生は、3 分の 1 は修士課程に進学するとのことであった。

また、視察先には、以下の 3 コースが設置されていた。①定員 140 人の従来 of ソーシャルワーカー養成コースで、ケースワークに焦点化した学びを行う。②定員 70 人の国際的視野を持つソーシャルワーカー養成コースで、ジェーン・アダムズのセツルメント論や、パウロ・フレイレのエンパワメント論に焦点化した学びを行う。③定員 35 人の児童・青年達のソーシャルワーカー養成コースである。



写真は左から、大学の看板、大学の外観、グループ討論の部屋、ラウンジ

### ② ソーシャルワーカー養成大学の教育内容

視察先の学校の国際的視野を持つソーシャルワーカー養成コースにおける教育課程は、表 2 のとおりである。

教育期間中には、月 6,000 クローネ (2019 年 10 月 29 日現在で 1 クローネは約 16.2 円) の奨学金が支給されるが、不足しているため学生達はアルバイトで補っている。

教育方法は、個々の学生が自宅で本を読んできて、学校ではテキストに基づく対話を行いながら教育を進めていく。そのため、1 回目は 70 人全員が講義を聞き、2 回目は 4 人～6 人のグループ単位での討論を行い、2 人の教師が補佐する。また、3 週間毎に学生が計画してミーティングを行い組織活動に取り組む。

表2 国際的視野を持つソーシャルワーカー養成コースの教育課程

セメスター	教育内容
第1セメスター	<ul style="list-style-type: none"> <li>・対話や社会開発を含むパウロ・フレイレの理論を学ぶ。学生達は、理論、方法論、対象グループについて学ぶ。</li> <li>・学生達が計画を立てて、トルコのインタムブルにあるパートナー大学に訪問し、1週間の研修を行う。20カ所の協力組織における難民支援の業務を見て、グローバルセッションの意味を学ぶ。</li> <li>・難民支援を行っているゲスト講師を招くこともある。</li> <li>・各自自治体に出向き、ソーシャルワーカーの仕事に関する講義を聞く。</li> </ul>
第2セメスター	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ソーシャルワーカーの先輩をゲスト講師に招く。</li> <li>・1週間、現場のソーシャルワーカーと共に往く見学実習。</li> <li>・学生達がキャンペーンやカンファレンス等何らかのイベント作りの計画を行うことで、グループで仕事をするトレーニングになっている。それにより、自らが修得したことに責任を持つこととなる。</li> </ul>
第3セメスター	<ul style="list-style-type: none"> <li>・福祉事務所と協力して地元の貧しいアパート群に出向き、市民の生活状況を把握する。児童、青年、組織化が焦点となる。</li> <li>・加工されたケースについて、オンラインで出題される問題に対して、福祉国家デンマークで働くソーシャルワーカーとして、どのような対応をすればよいかを考える。</li> </ul>
第4セメスター	<ul style="list-style-type: none"> <li>・5か月間（週37時間労働、計740時間）の実習を行う。実習先は国内でも国外でも可能である。大学のスーパーバイザーが3回訪問してスーパービジョンを行う。6人が1グループとなり、3回は帰校スーパービジョンを行う。国外の場合にはスカイプを活用する。</li> <li>・実習中に3回報告書を大学に提出する。</li> <li>・実習後には5ページのレポートと口頭試験があるため、その準備も行っていく。</li> </ul>
第5セメスター 第6セメスター	<ul style="list-style-type: none"> <li>・選択分野の実践や多職種連携教育（10週間）を行う。例えば、「精神病棟にはどのようなスタッフがいますか」という1つのテーマに沿った学びを行う。</li> <li>・大学の教育課程に多職種養成が入っているため、ソーシャルワーカーは看護師の仕事も学ぶ機会もある。</li> </ul>
第7セメスター	<ul style="list-style-type: none"> <li>・50ページ以上の卒業論文を執筆する。</li> </ul>

大学教育ではグループでの教育が一般的であり、テーマによりグループも変化する。ソーシャルワーカーは様々な市民と接する必要があるため、異なる意見の人たちとグループを作ることは大切である。最初は教員がテーマを決めるが、徐々に学生主導に変わっていくとのことであった。

### Ⅲ. デンマークのソーシャルワーカーの状況

#### 1. デンマーク社会相談員協会の概要

##### ① 協会の役割と活動戦略

次に、ソーシャルワーカーの職能団体であるデンマーク社会相談員協会に訪れた際に聞き取った状況を報告する。

私達が話を聞いたニコライ（Nikolaj Poulsen）氏は、5年前からデンマーク社会相談員協会（以下、協会）の仕事に携わっている専従職員である。協会において、教育、研究、保険、国際

関係の担当を行っており、過去には6年間協会会長を行っていた。国際関係とは、外国のソーシャルワーカー協会との連携であり、このなかには日本のソーシャルワーカーの職能団体である、(公社)日本社会福祉士会、(公社)日本精神保健福祉士協会、(公社)日本医療社会福祉協会、(特非)日本ソーシャルワーカー協会も含まれている。

協会はソーシャルワーカーの職業及び専門協会のユニオンであり、約18,000人が加入している。うち、15,000人は専門教育を受けた人であり、残りの3,000人は学生である。

次の2軸のもとで活動を展開している。一つは、メンバーの給与や労働条件に関することへの対応である。そもそもデンマークは労働組合(ユニオン)が強く、必須のものである。他国では所属組織内のユニオンをつくるが、デンマークでは全国のソーシャルワーカー全員を集めてまとめたこの協会が存在する。二つ目は、社会保険・政策、各市民の社会状態をよくすることである。政治家が協会に意見を聞いてくることもあれば、協会側から政治家に対して特定の問題についてのロビー活動を行うこともある。

協会の活動戦略としては、以下の6点を掲げている。①多様な市民の抱えている問題に対し、様々な知識を武器として活用して影響力を持たせる。②事務的なペーパーワークという「お役所仕事」を極力排し、市民と接する時間を増やす。③医療機関や職業斡旋センター、刑務所等での問題をなるべく早く発見することで予防機能を働かせる。④外部の研究者に頼るのではなく、ソーシャルワーカー達が自身の経験を生かした研究を行う。⑤問題を持った市民と接するソーシャルワーカーの評判を良くする。⑥市民への貢献は重要だが、ソーシャルワーカーのみでは限界があるため、多様な専門家と協力を行う。

## ② 圧力団体としての機能と現在の課題

ソーシャルワーカーが仕事を行っていくときに、職業として政治的枠の中で機能しているかどうかに影響を受ける。例えば、ソーシャルワーカーとしては新政府が行政計画を立てる際に、管轄省の大臣と対話を行い、保護が必要な人に予算を使うべきという政治的対話を行う必要がある。協会はそのための圧力団体としての窓口になっている。協会の会長・副会長・ニコライ氏が政治コンサルタントとして大臣と対話を行う。このような活動は、医師会や看護協会など、他の専門職団体も同じである。

そして現在、3つの課題に取り組んでいる。まず、貧困家庭のもとでの貧困児童の増加である。幼少時の貧困な状態により、格差が広がっていく。そのため、どのようにしたら良い教育が受けられ、良い状態が保障できるのかが課題である。次に、若年の犯罪者への対応である。12～15歳くらいの若年犯罪者を18歳～25歳くらいの青年と同じように処遇するべきかどうか課題となっている。そして、障害者に対する扱いの公平性に関する課題である。障害のレベルによっては援助量が異なるため、全員に対する公平な対応を行うことが、真に公平かどうかについては議論がなされている。



デンマーク社会相談員協会のロゴマーク

## 2. デンマークのソーシャルワーカーの現状

### ① ソーシャルワーカー全体の状況

デンマークで活動する約15,000人のソーシャルワーカーは、次の4領域での仕事を行っている。①民間セクター、②コミューネ（全国で98の自治体）、③リジョン（全国で5つある地方）、④国である。

デンマークはほとんど公的セクターで福祉事業を行っているが、わずかに福祉事業を行う民間セクターが存在する。その場合も、公的セクターと契約を結び仕事を行うことになる。民間セクターのソーシャルワーカーの仕事としては、患者組織などのユーザー組織、非政府組織（NGO）、独立開業等がある。

一方、公的セクターで働くソーシャルワーカーの内訳は、以下のとおりである。コミューネ（自治体）では、主として職業斡旋を行うジョブセンターで働くソーシャルワーカーが約5,500人、児童・青年・家族・高齢者福祉に携わるソーシャルワーカーが約4,500人いる。全国で5つのリジョン（地方）では、医療機関や重度障害者等の施設で働くソーシャルワーカーが約800人いる。国では、刑務所や教育機関、省庁や研究所で働くソーシャルワーカーが約900人である。

どこで仕事をしていても、人物を全体的に見る力があるのがソーシャルワーカーである。例えば、ある人が疾患になり仕事を辞めて収入が減り、家庭での問題が生じてくる。それらの問題を全て解消する「総括的な仕事」がソーシャルワーカーの仕事である。また、精神科病院で自殺願望を持つ青年がいた場合、多職種と連携しながら家庭や学校との対話も進めていく。このように、ソーシャルワーカーは「全体的なケアができる訓練」を受けている。

### ② 医療分野のソーシャルワーカーの状況

5つのリジョン（地方）で働く医療分野のソーシャルワーカー800人は、4つの専門的領域に分かれている。児童・青年の精神疾患患者、大人の精神疾患患者、犯罪加害者の精神疾患患者、身体疾患を持つ人への対応である。例えば、精神疾患と薬物問題という2つの問題を抱えているときに、分野や職域を超えて協働する必要があるが、それぞれの歴史や核があるため領域間での協働が難しくなることが課題である。

また、医療分野のソーシャルワーカーの機能があまり大きくないため、予算削減が迫られるこ

とがある。それに対しては、他の専門職（医師、看護師、理学療法士、作業療法士等）と協力しながら当局と対話を行う必要がある。

### ③ ソーシャルワーカーの就職活動と就職後の研修

ソーシャルワーカーの就職活動は、どれか一つの万能な方法があるわけではない。求人データベースやインターネット、学生同士のネットワークの活用、実習先での採用等がある。住む場所や行う領域を選ばなければ、1か月程で就職が決まる。特定の人のために働きたいというニーズがある時には、就職活動に要する時間が延びる。なお、ソーシャルワーカーの失業率は2～3%と低いものである。

ソーシャルワーカーとして就職した後は、様々な基金から助成金を受けて、追加教育を受けることができる。0.5～1%のソーシャルワーカーは、修士課程に入りなおして勉強する。普通のソーシャルワーカー教育を受けた人が全ての領域で活動しており、修士号取得者は養成校教員やコンサルタントになっていく。

## IV. 視察のまとめ

最後に、視察を行ってわかった日本とデンマークのソーシャルワーカーをめぐる状況の違いをみていく。

表3をみると、両国では資格取得に関する実習時間や国家試験の有無、仕事の場での違いが見受けられる。しかしながら、ニコライさんの話にあるようにソーシャルワーカーは「総括的な仕事」であり、「全体的なケア」ができる訓練を行っているという点では、仕事の本質は両国で共通していると考えられる。

表3 日本とデンマークのソーシャルワーカーの状況

	日本	デンマーク
養成年限	大学教育を基準にした場合、4年間	大学教育を基準にした場合、3.5年間
実習	国家資格を基準にした場合、180時間、23日間以上	5ヶ月間
資格取得	社会福祉士・精神保健福祉士国家試験を受験し合格することで取得可能。	ソーシャルワーカー学校を卒業することで取得可能。
就職活動	インターネット、希望先の説明会等に参加しての職探し、就職試験を受ける。公務員になるには試験を受ける必要あり。	求人データベースやインターネット、学生同士のネットワークの活用、実習先での採用等。公務員になるための試験はない。
仕事の場	公的セクターへの所属割合より、民間や社会福祉法人で働く割合が多い。	多くが公的セクターに所属しているが、民間セクター所属のソーシャルワーカーも少数存在する。

今後は、当初予定していたものの実現できなかった、デンマークにおける医療機関のソーシャルワーカーの仕事内容について、さらに深く探っていきたい。

最後に、この場を借りてお世話になった、現地コーディネーターの和子 Mayer さん、日本のコーディネーターの小野鎮さんに感謝申し上げたい。また、同行者の皆さんにも御礼申し上げます。

#### 引用文献

- 保正友子・関井和美（2015）「フィンランドにおける医療ソーシャルワーカーの業務」『立正社会福祉研究』16（2），77-83 頁
- 保正友子・関井和美・庄司妃佐・中村裕子（2016）「ノルウェーにおけるソーシャルワーカー養成と医療ソーシャルワーカーの業務」『立正社会福祉研究』第17巻1・2号，99-106 頁
- 保正友子（2018）（「スウェーデンにおけるソーシャルワーカー養成と医療ソーシャルワーカーの業務」『立正社会福祉研究』33，97-103 頁